

令和5年度
全国学力・学習状況調査
結果報告書

令和5年9月5日(火)

智辯学園奈良カレッジ小学部

6年生が本年度4月に受験した全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。調査は、国語・算数の2教科と児童質問紙の3種類の調査問題でした。本校では、児童の基礎学力を確認するのに良い機会と考え、毎年調査に参加しています。また、児童質問紙で児童各人の生活の様子がわかるのも本調査のメリットであると考えています。

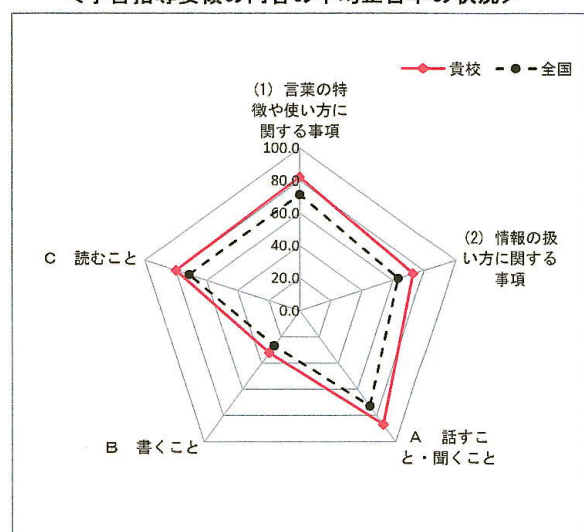
以下が本校6年生の結果です。

【国語】

対象児童数	智辯学園奈良カレッジ小学部	全国（国公立）
	28	977,172

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				貴校	全国
全体			14	78	67.4
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	82.1	71.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	73.2	63.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	86.9	72.8
		B 書くこと	1	32.1	26.8
		C 読むこと	3	79.8	71.4
評価の観点		知識・技能	7	79.6	69.1
		思考・判断・表現	7	76.0	65.6
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	9	81.0	73.7
		短答式	2	76.8	62.9
		記述式	3	69.0	51.2

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



本校6年生の国語の基礎学力は概ね身についているといえる。「知識及び技能」については、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」が82.1%、「(2)情報の扱い方に関する事項」が73.2%で、問題のない結果である。

一方「思考力、判断力、表現力等」については「A 話すこと・聞くこと」「C 読むこと」については大きな問題はないが、「B 書くこと」については課題がある。

「B 書くこと」の出題は1問で、本校の平均は32.1%（全国平均26.8%）と国語の全14問中で最低であった。

「2つの水田に生えた雑草量に関する棒グラフや栽培記録など3つの情報を組み合わせて考え、課題と解決策を60～100字で書く問題」であったが、グラフから必要な情報を読み解き、問題文の指示に従って書くことについては全国の6年生と同様、低迷している傾向にある。複雑化する現代では、単一の情報で課題が解決できるとは

限らない。複数の情報を目的に応じて組み合わせ、最適解を見いだすことが必要となってくる。つまり今回の結果は、「書く力」というよりも、「情報活用力」の不足に原因があると考えられる。

児童質問紙の「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか」という質問に、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した本校児童は92.9%であり、本校では、「書くこと」に意欲的に取り組む児童が多いことがわかる。今後とも丁寧に指導を続け、多種多様な要求に応えつつ適切な文章を書く力を養っていきたい。

また、全国的な傾向として、活字好きは国語も算数も正答率が高いとの結果が出ている。今回の調査で「読書は好きですか」という質問に「当てはまる」と回答した本校児童は57.1%で昨年の38.7%から大幅にアップした。さらに、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問で本校児童は32.2%が1時間以上読書をしており、30分以上も含めると約7割にのぼり、読書の習慣が定着していることが窺える。国語で扱う教材（文章）の内容は非常に多岐にわたる。自らの知の世界を広げるため、児童にはあらゆる分野の書物に興味関心を持ってもらえるように、今後とも読書指導に力を注ぎたい。

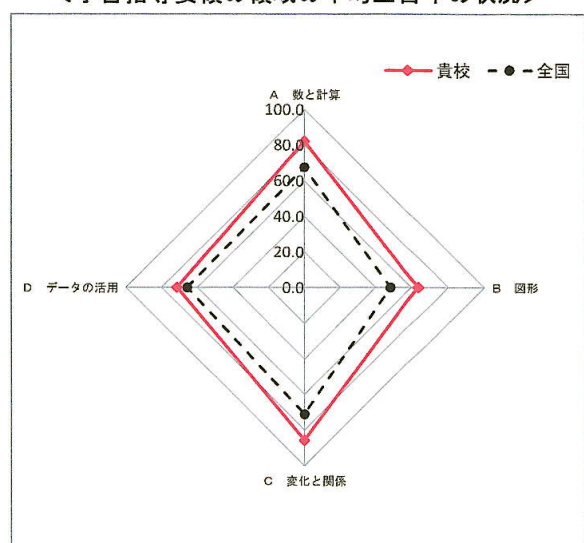
「新聞を読んでいますか」という質問に「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回読んでいる」と回答した児童は合計で17.9%で、こちらは昨年の29.0%、一昨年の34.1%を大きく下回る結果であった。新聞を購読している家庭も減少している昨今の状況を反映した結果であろう。他のメディアを活用してもよいので、現在の世界情勢や現代社会の課題など未来を志向していくうえで知っておかねばならない情報や知識を積極的に求める姿勢を持ってもらいたいと願う。

社会の多様化がさらに進んでいく中で、他者の意見に素直に耳を傾けながらも、確かな情報や知識、エビデンスに基づいて主体的に思考し、自らの意見をしっかりと主張して協働できることが必要になってくる。そんな中で児童たちが国語の基本的なスキルを高めることはますます重要な課題といえる。

【算数】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			貴校	全国
全体		16	77	62.7
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	82.1	67.5
	B 図形	4	63.4	48.4
	C 測定	0		
	C 変化と関係	4	85.7	71.1
	D データの活用	3	71.4	65.7
評価の観点	知識・技能	9	80.2	67.4
	思考・判断・表現	7	71.9	56.7
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	5	71.4	57.9
	短答式	7	86.7	74.9
	記述式	4	65.2	47.6

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



本校6年生は、算数の基礎学力がしっかり養われているといえる。

ただ、全国平均正答率が48.4%であった図形の問題は本校でも63.4%と他の分野に比べると低い結果であった。

幅広テープを切断して作った2つの三角形の面積の大きさを判断し、理由も記述する問題で、2つの三角形の高さがテープの幅であると気づけば容易に解ける問題であった。

算数の問題は、多面的に捉え、解決の糸口やヒントを探り当てる力を養うことが重要であり、そのような力は問題演習の中で養われる。今後とも、各児童の習熟度に合わせて丁寧に教科指導を続けていきたい。

また、現行の学習指導要領に盛り込まれた「D データの活用」も3年連続で出題された。全国平均65.7%に対して本校は71.4%とわずかに上回っているものの今後

課題が残る結果であった。グラフや資料の読み取りについて意識的に指導したいと考えている。

児童質問紙の回答では、「算数の勉強は好きだ」（「どちらかといえば、当てはまる」を含む：以下も同様）は78.5%と昨年の93.5%に比べると大幅に下がっている。また、「算数の授業の内容はよく分かる」は85.7%で昨年の90.3%から少し下がっている。しかし、「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように回答しましたか」に対して、本校児童の92.9%が「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えている。本校児童が算数に対して高い意欲と関心を持って学んでいることが窺える。最近、算数でも長い問題文をしっかりと読んで、解答を文章などで記述するという傾向の問題が増えてきた。そういった面で算数においても国語の基礎学力が重要であるといえる。

算数は、正解を出すことを目的にするのではなく、計算式や図表の意味をとらえ、考えたことをわかりやすく説明して考えを共有し、より良い結果を見つけ、自らの思考過程を振り返って新たな疑問を見つけるという問題解決の過程を充実させていくことが大切であると考えている。

本校児童は、算数の基礎学力は十分に身につけているので、今後は、基礎学力のさらなる充実とそれを応用する力を養い、皆で一緒に算数を学ぶ楽しさをさらに深く体感して欲しいと願っている。主体的に問題に取り組み、論理的思考の楽しさや論理的整合性の美しさを味わえるような人間に成長してくれることを期待して、各個人に寄り添いながら丁寧に教科指導を続けていく。

学習についての総括

質問事項		よくしている	時々している	あまりしていない	全くしていない		
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	本校	32.1	14.3	53.6	0.0		
	全国	28.8	41.9	22.0	7.1		
質問事項		3時間以上	2時間以上	1時間以上	30分以上	30分未満	全くしない
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	本校	28.6	39.3	10.7	14.3	3.6	3.6
	全国	12.1	13.9	31.4	26.7	11.3	4.5
質問事項		3時間以上	2時間以上	1時間以上	30分以上	30分未満	全くしない
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	本校	42.9	21.4	7.1	14.3	10.7	3.6
	全国	8.2	5.5	11.5	27.7	33.5	13.6

学習時間について、平日2時間以上勉強している児童は、全国が25.0%に対して本校は67.9%、また休日などに2時間以上勉強している児童は全国が13.7%に対して本校は64.3%としっかり学習時間を確保している児童が多い。一方、「計画を立てて勉強していますか」という問いに対して「よくしている」「時々している」を合わせて全国が70.7%であるのに対して本校は46.4%と大幅に下回っている。これは、学校や塾などで指示された課題をこなすことに追われた受動的な学習になっているからではないかと推測できる。今後、児童たちが主体的に学習に取り組んでいるかどうかを確認しながら、教科指導に当たる必要がある。また、しっかり時間をかけて堅実に学習に取り組むことは大切だが、学習の質を高めることはもっと大切である。まして、中学校に入学したら、学習の量・質ともに今以上のものが要求される。児童が主体的に学習に取り組み、時間に見合う成果を収められているかをしっかりと検証しながら児童の指導に当たる所存である。

また、従前の大学入試において、難関大学に合格するためには、いかに多くの知識をインプットできるかが重要な課題であったが、最近の大学入試は、単に知識を身につけているだけでは突破できない。答えのない問題に対して、自分の持っている全知全能を傾注して考え、判断し、誠実かつ論理的に解答することが求められる。そういう意味では教科的な学力だけではなく、教科横断的なリベラルアーツとしての学びを深め、全人的に知力を高める必要がある。児童各人が知的好奇心を働かせ、楽しみながら勉学に励んでくれることを期待するとともに、教職員も全力を挙げて支援したいと考えている。

【児童質問紙】

生活習慣及び学校生活

質問事項		選択肢			
		当てはまる (している)	どちらかとい えは当て はまる	どちらかとい えは当て はまらない	当てはまら ない
朝食を毎日食べていますか	本校	64.3	17.9	14.3	3.6
	全国	83.7	10.2	4.6	1.5
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	本校	35.7	28.6	32.1	3.6
	全国	38.1	42.9	15.8	3.2
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	本校	42.9	46.4	10.7	0.0
	全国	55.1	35.4	7.9	1.5
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	本校	39.3	32.1	21.4	7.1
	全国	33.4	35.1	21.2	10.3
学校に行くのは楽しいと思いますか	本校	46.4	39.3	14.3	0.0
	全国	49.9	35.5	9.9	4.7
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	本校	35.7	28.6	21.4	14.3
	全国	32.1	44.5	18.1	5.2
友達関係に満足していますか	本校	46.4	28.6	21.4	3.6
	全国	63.2	27.1	7.1	2.5

「朝食を毎日食べていますか」という質問では、「当てはまる」が64.3%、「どちらかといえば当てはまる」が17.9%で、昨年に比べ朝食をとらずに学校へ来ている児童が増えていることが気掛かりである。昨年は「当てはまる」が83.9%、「どちらかといえば当てはまる」は12.9%、「どちらかといえば当てはまらない」が0.0%、「当てはまらない」は3.2%であった。

就寝起床時刻についても、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問では、「当てはまる」が35.7%（昨年41.9%）、「どちらかといえば当てはまる」は28.6%（昨年35.5%）、「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」という質問では、「当てはまる」が42.9%（昨年48.4%）、「どちらかといえば当てはまる」が46.4%（昨年48.4%）で、起床時刻は概ねの児童が一定しているが、就寝時刻については約3分の1の児童が一定しておらず、昨年度の本校6年生と比較しても、規則正しい生活習慣を身に付けているとはいいがたい状況である。今後とも基本的な生活習慣を確立できるようにご家庭と協力しながら指導を強化していきたい。

学校生活については「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に「当てはまる（「どちらかといえば当てはまる」を含む）」が85.7%で、大方の児童は充実した学校生活を送っていることがわかる。また、学校の先生などに困りごとを相談しにくい児童が約3分の1いることや、学校に行くのはあまり楽しくないと思っている児童が14.3%もいること、「友達関係に満足していますか」に対して約4分の1が「当てはまらない」（「どちらかといえば当てはまらない」を含む）」と答えており、この結果を真摯に受け止めて、丁寧に児童に寄り添いながら学級経営をしていくことが大切であると考えている。

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」は、21.4%が「どちらかといえば当てはまらない」14.3%が「当てはまらない」と回答しているが、自我の確立期に自分の考えに固執するのはありがちなことである。あまり心配する必要はないと思うが、「相互礼拝・相互扶助」の精神で、多様な価値観を互いが尊び合い、違いを乗り越えて互いに助け合うという精神をしっかりと養っていかなくてはならないと考える。

規範意識

質問事項		選択肢			
		当てはまる (している)	どちらかとい えば当て はまる	どちらかとい えば当て はまらない	当てはまら ない
人が困っているときは、進んで助けていますか	本校	35.7	42.9	17.9	3.6
	全国	45.6	46.0	7.2	1.2
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	本校	82.1	14.3	3.6	0.0
	全国	82.5	14.4	2.3	0.8
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	本校	85.7	10.7	3.6	0.0
	全国	75.4	20.5	2.9	1.2

本校児童は規範意識も概ね身につけている。困っている人を進んで助けようという思いや、人の役に立つ立派な人間になりたいという願い、「いじめ」を決して許さないという意識をしっかりと持っている児童が多くいることを嬉しく思っている。

しかし、今後は、もっと積極的にかつ主体的に社会貢献に取り組む人間を育てていきたい。仏教の相互礼拝・相互扶助の教えを基に心優しい人物を育みたいと考えている。

自己有用感

質問事項		選択肢			
		当てはまる (している)	どちらかとい えば当て はまる	どちらかとい えば当て はまらない	当てはまら ない
自分には、よいところがあると思いますか	本校	42.9	46.4	7.1	3.6
	全国	42.6	40.9	11.4	5.1
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	本校	57.1	39.3	3.6	0.0
	全国	49.9	39.9	7.8	2.4
将来の夢や目標を持っていますか	本校	71.4	10.7	14.3	3.6
	全国	60.8	20.6	10.4	8.2
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	本校	39.3	53.6	3.6	0.0
	全国	49.9	41.0	8.0	1.0

本校児童は89.3%の児童が自分にはよいところがあると考え、82.1%の児童が「将来の夢や目標」を持っており、96.4%の児童が先生から認めてもらっている。そして、92.9%が普段の生活の中で幸せを感じることがあるという。一方で「自分に良いところがない」と感じている児童が10.7%いる。これらの児童は、自己に対する要求水準が高く、完璧を追い求める傾向にあり、そこに到達していないことに満足できていないのではないかと。また、周囲の大人の期待に応えなくてはという気持ちも強く、失敗して裏切りたくないという思いがあるのかもしれない。

失敗や間違いは決して恥ずかしいことではない。それを乗り越えたときに、大きな成長がある。児童たちが失敗を恐れず、何事にも果敢に挑戦し、小さな失敗をたくさん積み重ねて大きな成果へとつないでくれることを期待する。

将来が不透明で世の中がますます多様化していく中、しっかりとした主体を築き、自らの生き方を考え抜くことが求められている。本校は、社会に貢献できるリーダー育成のため、児童各人の夢を大切に育みながら一人ひとりと丁寧に向き合える学校でありたいと考えている。